落札額はなぜ最低制限価格と一致か？

「本命」へ落札させんがためか？

入札結果表（入札額の高額順に並び替え）

（地域介護福祉空間施設および子育て支援センター建設工事）

	指名業者	入札額	比率%	落札社との差
	（株）辻正	1億7780万	99.887	―
	（株）土屋組滋賀彦根支店	1億7530万	98.483	―
	（株）長組	1億6500万	92.696	―
	丸平建設（株）滋賀支店	1億5700万	88.202	―
	淀建設工業（株）滋賀支店	1億5219万	85.500	＋0.309%の差
落札	（株）浜野工務店	1億5164万	85.191	＊＊＊＊＊
失格	（株）マルヤマ甲良営業所	1億5150万	85.112	－0.079%の差
失格	辻寅建設（株）彦根支店	1億5131万	85.005	―
失格	岐建（株）滋賀支店	1億4780万	83.033	―
辞退	（株）秋村組彦根支店	―		―
取抜き	（株）伊藤組	―		―

@予定価格は１億7800万円（公開）　@比率＝対予定価格

@失格＝最低制限価格を下まわって入札した社

@最低制限価格は入札執行後も非公開としている

11月８日付け「甲良民報」より再録

「除斥」とは

・・・地方自治法117条・・・

「議員は・・・自己、配偶者、血縁者（2親等内の血族）の一身上に関する事件またはこれらの者の従事する業務に直接的な利害関係のある事件の審議に当たっては、公正な判断は困難であり、たとえ公正な判断をしたと主張しても、それを証明する方法はなく、住民から見て議会の権威もなくなる。そこで利害関係ある議員をその事件の審議に参与させず事件と関係のない他の議員のみによる判断をゆだねるのが適当であることから除斥の制度が設けられたものである。」【全国町村議長会編集「議員必携」より】

この117条に基づき9日の本会議で、濱野議員は百条委員会設置等の議案審議では退場となりました。

7号　（昭和17年9月1日第3種郵便物認可）　3月12日　中　国　新

受診遅れで43人死亡

無保険や貧困 理由

09年、民医連調査

国民健康保険（国保）の保険料を滞納して保険証がない「無保険」になるなどの理由で、受診が遅れ死亡した人が二〇〇九年の一年間に少なくとも十七都道府県で三十三人いたことが十一日、全日本民主医療機関連合会（民医連、東京）の調査で分かった。保険証を持ちながら経済的理由で死亡した人も六都県で十人に上った。

年金生活の高齢者や「派遣切り」などによる失業者らが多く、民医連は「景気悪化で貧困や格差の問題が広がる中、低所得者層は医療さえ受けられない厳しい状況があらためて浮き彫りになった」と指摘。国保行政の在り方をめぐる国の姿勢が問われそうだ。調査は、全国の民医連の加盟医療機関から報告を求める形で行われた。

保険料の滞納などが理由で亡くなった三十三人は男性二十七人、女性六人。無保険は二十三人で、有効期間が短い「短期被保険者証」を持っていた人が六人。いったん医療費全額を支払わなければならない「被保険者資格証明書」は四人。

都道府県別では石川、福岡、沖縄四人、北海道、神奈川三人など。五十、六十代がいずれも十三人で、四十代四人、七十代二人のほか、三十代も一人いた。職業別では、無職が十八人、非正規労働者九人、自営業三人、年金受給者二人、ホームレス一人。

がんや糖尿病が多く、肺がんで亡くなった最年少の三十九歳の男性（長野）は、初診の二カ月前から自覚症状があったが「保険証がないから病院に行けない」と考え、受診を控えていたという。

一方、保険証を持ちながら窓口で支払う自己負担金が支払えずに受診が遅れ死亡した十人は、五十～七十代のいずれも男性。国保加入者が七人、社会保険加入者二人、七十五歳以上が対象の後期高齢者医療制度加入者が一人。東京四人、沖縄二人、埼玉、神奈川、長野、岐阜が一人ずつ。

民医連は、無保険者と短期被保険者証、被保険者資格証明書を発行された人の死亡数について三回の調査を行っており、〇五～〇六年は二十四人、〇七年は二十七人、〇八年は三十一人だった。

保険証は命綱（いのちづな）　取り上げないで

西澤議員は保険証取り上をペナルティーとして発動しない原則を掲げるべきだ、と迫りました。予算決算常任委員会（12日）で地方自治体の国保会計に占める国庫の割合が84年は49.6%だったのが2007年度には25%にまで下がり、高くて払えない国保税の根本解決の方向を示すとともに、滞納者への資格証（病院窓口で全額負担を迫られる）発行では収納促進とはならないと述べました。失業者など苦しい家庭に町の「国保税減免規定」を知らせるべきとの要請に対し、必要な方に個々に対応すると担当課長は答弁。

19日、国保会計の討論では、民法で給与の差し押さえ25%限度で生活権保障が定められている例を示し、「命綱となっている保険証取り上げを直ちに中止すべき」と迫り、一般会計からの繰り出しを増やすことなどを求めました。

はばたく子ども達

子ども達が巣立つ姿を見守るのはすがすがしく胸が熱くなります。中学校では、「卒業おめでとう。一人ひとりの存在はチッポケだなと思う時も幾度も感じるときがあると思います。そんな時こそ、ありのままの自分を信じて進んで下さい」と。小学校では「卒業おめでとう。たのもしいスピーチを聴かせてもらいました。夢に向かって進むことを希望しています」とひとことを贈りました▼わが町議会も大きな動きが起きました。調査に法的強制力をともなった特別委員会が全議員の賛成で設置されたのです。いわゆる「百条委員会」です。証言でウソをつけば偽証罪の告発が可能です。調査の威力が発揮されます▼この決議が全員の賛成で可決したということは官製談合の「疑惑」を議会の意思として認定し、調査が必要と判断した結果でもあります。昨年7月から続いた第一関門を突破した意義は大きいものがあります▼また「落札額」が「最低制限価格」そのものだと入札事務の最高責任者が答弁したことは今後の「疑惑」解明の重要ポイントとなりそうです▼政治的立場の違いをこえて真相解明が進むことが求められます。公正な社会のバトンを子ども達に渡すために。

お元気ですか

のぶあきです

日本共産党

≪西澤伸明町議会議員だより≫

2010年３月２１日（日）号

Tel・Fax：38-4949

滋賀・犬上郡甲良町在士463

メール　siga-koura463@jcp-nobuaki.com　ホームページ：グーグル「西澤伸明」で検索